



道

みちもり

MICHIMORI  
TSUSHIN

通信

vol.3 秋号



巻頭随想

「山旅で思う道」 栗秋正寿

特集 道は祭りのメイン舞台

長崎くんちのステージは坂道・曲がり道・石畳

道守会議の輪

宮崎・佐賀・鹿児島・長崎にも誕生

【街道を行く】

龍馬ハネムーンウォークin霧島に3500人

【ご存知ですか】

九州の道路「走りやすさ」が地図に





# 栗秋 正寿

巻頭随想

## 山旅で思う道

現れる。子供のころに見た動物図鑑、そんな世界だ。私は、少年のようにワクワクし、胸がおどった。

帰り道にふと、目にとまった。それは、往きに私たちが雪を踏み固めて作った「道」の上に続くオオカミの真新しい足跡だった。獲物を探していたのだろうか、それとも人の臭いを嗅いでいたのだろうか。もしかするとオオカミは深い雪に足をとられるよりも、踏み固められた雪道を歩くほうが楽なことを知っていたのかもしれない。

「ちよつと通らせてもらいますよ」

雪道に続く足跡を追いながら、そんなオオカミの声が聞こえた。

人間界とかけはなれたオオカミの世界にふれた気がした。私は、道がとりもつ不思議なつながりに思いをはせた。道、生き物が通るから道——

7回目の冬のアラスカ山脈登山を終えた今年4月、アラスカの友人と同じ山系のサンフォード(4950m)へ春山の旅にかけた。冬のマツキンリーなどへはいつも軽飛行機で3合目辺りの氷河に降り、そこから登り始めるので麓の村からスキーでアプローチした初めての山旅だった。リュックを背負い、荷物をのせたソリを引き、凍った川面をさかのぼっていく。山頂まで往復120km、2週間の道のりである。冬山の無機質な氷河地帯とはちがひ、そこには春を迎える生き物たちの姿があった。若芽をつけたヤナギや雪の重みで曲がったトウヒの木々を抜け、アラスカの州鳥・ライチョウたちのプロポーズに遭遇した。明け方までオーロラの舞っていた空には南から渡ってきた白鳥の群がV字を描いている。ヒグマやトナカイ、オオカミ、ヤマネコなどの足跡がゆくゆく雪原に

### 栗秋正寿プロフィール

1972年大分県日田市生まれ。福岡県立修猷館高校時代から山歩きを始め、九州工業大学大学院を中退後の98年3月、冬季マツキンリーに単独登頂。下山後、リヤカーを引いてアラスカ縦断の旅を楽しむ。99年4月と2001年3月、マツキンリーに連なるフォレイカーに単独登頂。今もアラスカの山旅を楽しみ続ける「山の旅人」。著書「アラスカ垂直と水平の旅」(山と溪谷社)。ホームページは <http://www.japanesecaribou.com/>

### 「道守九州会議」 設立趣旨

古代から、人々は共有の財産として、力を合わせて普請し道を守ってきた。道は暮らしを支え、産業を起こし、文化を運び、人々を結びつけた。

なのに、道はいま、人々から、地域から遠い存在—子供たちが道路でキャッチボールや縄跳びをし、老人たちが縁台で将棋を指した風景はどこへいったのだろうか。便利だが危険、車優先、大気汚染や騒音…心地よい広場の役目や「公共」を失ってしまったのだろうか。私たちにも忘れ物がある。「道は行政の責任」と自宅前のごみや雑草、汚れなどにさえ知らん顔。空き缶どころか家庭ごみまでポイ捨て。「道普請」の心は一体どこへ。

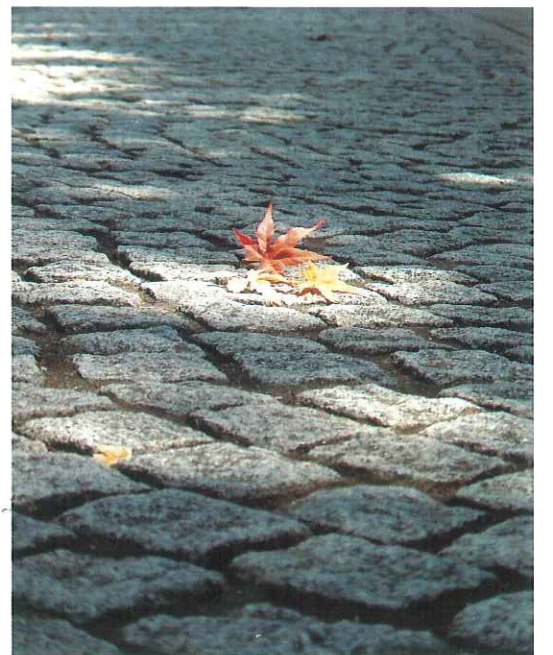
心を痛め、道の美化や植樹・植栽などに取り組み人々が増えている。実践者を中心に「道を考えよう」という機運が高まりました。「道路行政も転換期、量から質へ、車優先の見直し、さらに住民と行政の「協働」という新しい潮流が芽生え始めた。新しい機運と潮流をまとめ大きな流れに—。それが「道守九州会議」設立の呼びかけとなった。

道守。その由来は万葉の昔にさかのぼる。道を守り旅人の飢えと渴きを潤す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は、住民と行政とが協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。さあ、一歩踏み出そう。

写真提供：田辺 範光

- 1 巻頭随想……………「山旅で思う道」栗秋正寿
- 2 特集「道は祭りのメイン舞台」  
長崎くんちのステージは坂道・曲がり道・石畳  
広場へ、集いの場に、客席一体の劇場空間に
- 5 道守たちのトピックス  
……………缶拾い・声かけ30年 92歳の許斐さん
- 6 道守会議、宮崎・佐賀・鹿児島・長崎にも誕生
- 8 わたしの好きな道「癒しの道」矢野初美(宮崎・北川町)
- 9 「私たちの道守活動」紹介
- 12 浪漫を訪ねて  
……………「土木遺産・吉野ヶ里遺跡を貫く古代官道」
- 13 街道を行く  
……………「日本初の新婚旅行 龍馬お龍の道をたどる」
- 14 海外道事情…「交通需要マネジメントに取り組む国」  
シンガポール
- 15 ご存知ですか  
……………九州の道路「走りやすさ」が地図に
- 16 道の声・人の声
- 17 お知らせ  
……………10月15、16日「みちづくしinくまもと」

### CONTENTS



表紙画:久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

裏表紙短歌:山崎 源太郎

1929年福岡県生まれ。波濤短歌会第一同人。「道守九州会議」発足記念短歌優秀歌に選出。



# 長崎くんちのステージは坂道・曲がり道・石畳



## 道は祭りの メイン舞台

特集



棒島町のコッコデシヨの練習風景

季節は移り、夏祭りから秋祭りへ。祭りの多くは「道」を使う。神輿が往き、山車が通り、露店が並び、見物客で賑わう。山車の速さを競えばレース場。日常から非日常へ―道は、広場へ、集いの場へ、客席一体の劇場空間に変身する。  
見物客は見落としがちな祭り舞台の道。祭り本番の日ばかりでなく準備段階から道には大事な役目もある。地元の祭り人たちは日々使う道といかに折り合いを付け、どう大事にしているのか。本番が近付いた「長崎くんち」(10月7〜9日)の様子を訪ねた。

### 太鼓橋、 曳きものは渡れなくなった

出し物は奉納踊と総称され、その担当地区は「踊町」と呼ばれる。今年は大黒、東古川、本古川、棒島、出島、小川、紺屋の7町。6月1日の「小屋入り」から準備が始まる。約4カ月の間に、立派な出し物の準備はもちろん、本番の3日間に街中を回るための体力もつけなければならぬ。

海と山に囲まれた斜面の街、長崎は坂道や階段が多い。狭く、曲がりくねった路地が生活道路であり、そして祭り本番と稽古の舞台。  
今年、太鼓山を披露する棒島町太鼓山の総指揮者・三宅一雄さんは「長崎の道はかまぼこ型になって、真ん中が盛り上

### 路地を使って祭りの準備 稽古見学ナイトツアーが隠れた人気

長崎くんちは、長崎市上西山町の鎮西大社諏訪神社の祭礼行事。龍踊りや阿蘭陀船、太鼓山(コッコデシヨ)など国際色豊かな踊りや曳もの、担ぎものが登場し、3日間の期間中約27万人(2003年度)の人出で賑わう。

踊町が廻ってくるのは原則7年に1度、オリンピックより間遠、ライバル心も働くから準備と稽古は次第に熱がこもる。夏休みになるともう本番並み。室内の稽古から曳もの・担ぎものの練習が各町内の路地で始まるからだ。露地での稽古はもっぱら夜。最近稽古見学ナイトツアーが隠れた人気になっている。



棒島町太鼓山総指揮者・三宅一雄さん

がっています。なかなかまっすぐ走れません。ほりり上げたり、回転するにも調整が大変です。長崎の象徴・石畳も日々の生活はもちろん祭り本番・稽古にも不便だが、不満やアスファルト化の希望も地元にはない。

長崎大水害(昭和57年)で長崎市内中



心部を流れる中島川に架かる眼鏡橋などが壊れ、再建や架け替えが行われたが、そのいくつかは伝統的な太鼓橋型になった。そのせいで車輪付きのくんちの曳物は渡れなくなつた。「遠回りになりました。道順を考えるのが毎年、大変だが大事な準備。庭先調べ」といって地元にとってはくんちの鍵です」と長崎伝統芸能振興会の宮崎明実さん。

### 「庭先回り」が くんちの真髄

長崎くんちの「庭先回り」は、踊町が

世話になった家々や企業、官公庁などに踊りを献上しながら練り歩くもので、祭りの間、毎日行われる。3日間で行かずに一軒でも多く回るか、知恵を絞る。それが事前の「庭先調べ」、効率的な道順が鍵となるというわけだ。

出し物は大きいものだと全長約10m強、総勢100人を超える。特段の交通

規制もないし警察官もいない。各踊町が自分たちで交通整理をしながら大きな道から狭い路地へ、坂道を上り下り、石畳を抜ける。  
各踊町の道順が「毎年本番間近にならないとはつきりしないことが悩み」と振興会の宮崎さん。しかし「庭先回りでの隅々までが祭りとなるです」。地元の人々にとっては路地の賑わいがくんちの真髄。迎えるために道を整え、終わった後は掃除をして、道は再び生活と仕事の道に戻る。



庭先回りを行う棒島町のコッコデシヨ



長崎くんちの始まり、小屋入り(6月1日)



長崎伝統芸能振興会 宮崎明実さん

# 広場へ、集いの場に、客席一体の劇場空間に



大通りは主舞台、観光客も住民も一緒に賑わう

観光客が溢れる大通りはもちろん祭りの主舞台。長崎くんちの場合、諏訪神社下の広場から長崎県庁辺りまでの緩やかな広い坂道約1km。日ごろは長崎の大動脈（国道34号）だが、くんちのときは歩行者天国となり、周辺の道には500店ほどの露店が並ぶ。諏訪神社のご神体が御旅所まで「おくだり」し（7日）神社へ「おのぼり」する（9日）。踊町の奉納踊の列が行き交う。神様のおかげで人も歩行者天国。

踊り場で披露される棒島町のコッコデシヨ



地元の人々、観光客が一緒に賑わう。くんちの風景は、人ときを得て大きな道も小さな道も祭りの舞台に、集いの広場に変身するシンボル。広場にならない道は…。寂しい。

16年度長崎くんち踊町

大黒町	傘鉾・本踊・唐人船
東古川町	傘鉾・川船
本古川町	傘鉾・御座船
棒島町	傘鉾・太鼓山（コッコデシヨ）
出島町	傘鉾・阿蘭陀船
小川町	傘鉾・唐子獅子踊
紺屋町	傘鉾・本踊



九州には道がメイン舞台の祭りがたくさんある。



博多どんたく（福岡）

博多祇園山笠（福岡）

▼身の丈5mの巨人が道を占拠 弥五郎どん祭り

：鹿児島・大隈町

昔、大隅を統治していたといわれる伝説の隼人の首領、巨人・弥五郎どん。鹿児島県大隈町では、赤い面に白い麻の着物を着せた身の丈5mの弥五郎どん人形を先頭に浜下りの神輿行列が行われる。その大きさが道いつばいになる祭りだ。

▼旧長崎街道で大名行列を再現 同好会が手作りで：佐賀市

▼大幹線が大舞台に、沿道に延べ200万人 博多どんたく：福岡市

820年もの歴史を持つ祭りのクライマックスは、市内中心部を貫く明治通り約1.3kmを占有して繰り広げられるパレード。多くの町民が様々なスタイルで大舞台を練り歩く。

▼早朝の街路、山笠のスピードレース場 博多祇園山笠追い山：福岡市

「オイサ、オイサ」の掛け声とともに、まだ日の明けぬ早朝の博多を男たちが七流れの昇き山を担ぎ駆け抜ける。全長5kmのコースを独占状態。その両側すべてが極上の観客席となる。この日、道は男たちの熱気で覆いつくされる。

▼街の中心、道幅一杯に踊りまくれ おはら祭：鹿児島市

市の中心部を走る国道、県道、市道を舞台に太鼓や歌にあわせて、にぎやかに踊り歩くおはら祭。市制60年を記念して49年に始まったこの祭り、2万2千人に及ぶ踊り手が、花笠からレオタードまで様々な衣装で踊りを披露。



おはら祭（鹿児島）



弥五郎どん祭り（鹿児島）

祭りの舞台、それは日々使われている地域の道でもある。それはまた、普段は通過するだけで気にも留めない道を改めて感じる機会である。

誇り胸に剣道部が自主清掃 佐賀県 大和町東山田の大和中には、木造瓦ぶき、高さ4m、幅10mの「大成門」が悠然とそびえ立つ。数年前から、剣道部が毎朝、門前を自主的に掃除するようになった。ほかの部活動や生徒会が手伝うこともあり、大成門への愛着が学校全体に広がってきている。

北九州日豪協会が公園清掃 「北九州日豪協会」が小倉北区の足立公園や平和公園周辺で地域の老人会と一緒に道路や斜面の清掃活動を行った。芸術家サム・デ・マウロさんが「大人と子どもが一緒に、定期的に街の美化活動を行う」という故郷の習慣にちなんで提案したもの。今年で11回目。

「地域に貢献！」高齢者が道路清掃 福岡県小郡市横隈の三沢台団地の高齢者でつくる「健友会」は3年前から、幹線道路「原田駅大崎線」沿いの清掃活動を行っている。「地域のためにできることを」と、月1ペースで実施。最年長者は88歳。「除草作業中」の立て看板を設置、ドライバーに注意を呼びかけている。

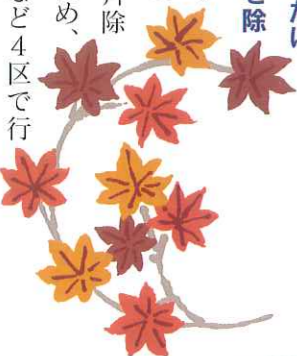
「ときの道」の語り部たち 熊本県の山鹿・鹿本地域では、チブサン古墳、菩薩像の眠る泰平寺、参勤交代の足跡が残る豊前街道の街並みや国指定重要文化財の八千代座、歴史公園鞠智城な

ど、古代から近代までのさまざまな「とき」を現在に伝える歴史遺産を結ぶ歴史ロードを「ときの道」と称し、観光案内をする語り部が、訪れる人々に心を込めた案内を行っている。

「ハシの日」に建設会社が橋の清掃 8月4日は「ハシ（橋）の日」として唐津市神田の建設会社「橋本建設」の従業員とその家族たち約30人が、ボランティアで城内橋、舞鶴橋、松浦橋の清掃作業を行った。工事受注の恩返しと、10年前から毎年行っている。

環境パスポート事業の実証実験 北九州市は、11月中旬から約2カ月間、八幡東区東田地区で環境パスポート事業の実証実験を行う。ごみ減量やリサイクル、美化活動など環境保護に役立つ市民の活動をポイント換算。累積したポイント数に応じて公共施設や協賛企業でサービスが受けられ、「地域通貨」の性格を持つ。ポイント蓄積の手段には、住基カードやICカードなど複数を検討している。

張るのは簡単だけ 違反広告物を除く 路上のチラシや看板などの違反広告物一斉除去作業が8月初め、福岡市中央区など4区で行



「ゴミ分別大使」



「缶拾い・声かけ30年」

地域環境美化功労者として環境大臣表彰を受けた許斐さんは、小学校教師を定年退職後の83年、町の世話人に就任。生まれ育った「親富孝通り」で30年にわたって、毎日夕方から夜にかけて空き缶拾いを続けてきた。たむろする若者に「ちよっと手伝わんね」と気軽に声をかける許斐さんには、彼らも素直に従うという。



宮崎市希望ヶ丘 新村健郎さん（65歳）



福岡市中央区舞鶴 許斐都紀さん（92歳）





# 道テーマに連携・論議・行動 九州各県に広がる

## 新たに4県で発足 地域道守会議 計6県

宮崎、佐賀、鹿児島、長崎で道守会議が発足。各県の道守会議は先行の熊本、大分を加え計6県となった。

### 道守長崎会議 R34ワークショップが原動力

「道守長崎会議」の設立総会が8月26日、長崎市内で開かれた。代表世話人にルート34ワークショップ実行委員会の阿野史子代表を選出、本年度の事業計画や役員などを決めた。阿野代表は「活動グループのネットワークをつくって活動を支援するとともに、道を守り育てることに関心を持つ人を増やしたい。それが道をきれいにしていくことにつながる」と設立の趣旨を述べた。



### 道守かごしま会議 ボランティア9団体を核に

7月7日、「道守かごしま会議」が発足。「道守九州会議」へ参加する3団体と、鹿児島県内でボランティア・サポート・プログラムなどで活動する9団体、道づくりへ意見の提案・活動をしている有識者ら約40人が参加した。



世話人に武町内会の廣田武實さん、永吉町内会の脇昭夫さん、札元商工親睦会の山内芳一さん、鹿児島大学の井上佳朗教授、鹿児島高専の平田登吉男教授を選出。

「活動が続き老人会や子供会にも定着してきた」「私たちの地域活動は小さいが、輪が広がることがうれしい」などの意見が交わされた。今後も意見交換を重ね、それぞれが地域に持ち帰ることで活動と参加者の輪を広げていく。

### 道守佐賀会議 多彩な活動報告で盛り上がる

「道」に関する意見交換会が7月5日、佐賀国道事務所で開催。「道守佐賀会議」が誕生。民間12団体26人（個人参加1人）

## 「自転車を天神の 新たな足に」など論議 都市探求シンポジウム 福岡市

福岡市・天神の交通問題を考える都市探求シンポジウムの第2弾が、7月30日、天神のエルガラホールで開かれた。約500人が参加し、交通渋滞や違法駐輪などについて意見交換が行われた。

森地茂・政策研究大学院大学教授の基調講演、外井哲志・九州大学大学院工学研究院助教授の欧州の交通事情などの報告に続き、山野宏・福岡市副市長、増田博行・国交省福岡国道事務所長、花田守也・福岡県警本部交通部統括参事官、天神の商店主代表の新天地商店街・まるきん呉服店の持永英輔社長が加わりパネル討論へ。

コーディネーターの出口敦・九州大学大学院助教授が「天神の都市構造をどう変え、快適な公共交通をいかに整備するか、市民が主体的に考えるときだ」と総括。「マイカーの流入を抑制して公共交通を充実させる」「長期的には都市構造を抜本的に改革する」「自転車利用を天神の新たな足と位置づけ、利用者のマナー向上を」などの意見を認めた。



## 女性たちがオシヤレに 別大国道の活用論議 シンデレラシンポジウム 大分市



女性の視点から道づくりを考える「シンデレラシンポジウム」が7月3日、大分市・田ノ浦海岸の大型レストラン「エシエル・ドゥ・アンジェ」で開かれた。特定非営利活動法人「NPO 観光コア」(大分市)や九州地方整備局大分河川国道事務所などで行う実行委員会が主催。

非日常的な空間でドレスアップして意見交換するという趣向で、県内外から地域づくり、観光、ITなどの専門家と、一般合わせて約150人が参加。六車線化され、沿道の観光施設がリニューアルした別大道路(国道10号・別府市東別府―大分市生石間)を観光や地域づくりはどう生かすかなどを、幅広い視点から議論した。

と国土交通省や佐賀県など道路関係者が参加した。

「現役の医者も社長も一緒に掃除をしている」「産学官で取り組み、自転車マップを作った」など多彩な活動が紹介された。「平成9年から会社周辺の清掃を始めたら最初は2t



ダンブ2台もあったのが少しずつ減り今は軽トラック1台分になった」などの成果も披露され、互いに励ましあう場となった。

個人参加者は「道守のホームページで知った」と参加の動機を語り、今後、道守会議を定期的に開き、情報交換や意見交換を進めることを確認しあった。代表世話人には「ロードネット佐賀」の北島悦子さんが選ばれ、事務局は唐津土建工業(株)が担当することになった。

連絡先は「ロードネット佐賀」TEL 0952242746

### 道守みやざき会議 NPOや市民組織など21団体

「道守九州会議」の設立を受け、6月28日に「道守みやざき会議」が発足した。宮崎地域の道守活動に携わる個人、市民団体、NPO、企業等が相互に連携・交流を図



るため、情報発信、情報交流を行っていく。宮崎地域の世話人となったのは、長友睦郎さん(宮崎交通(株))、日高晃さん(橋通りフラワーロード推進協議会)、矢野初美さん(北川町の道づくりを考える女性の会)の3人。世話人の呼びかけで、街路の清掃、植栽のデザインや世話、交通情報案内などの活動をしている宮崎県内の21のボランティア団体に参加。各々の活動の紹介や、その活動を継続する上での悩みや苦労話、今後の活動に向けてのアドバイスなど様々な意見が飛び交った。

連絡先は「宮崎交通直営部」TEL 0985651111

### 道守柳川会議 発足の気運高まる 水郷で官民250人が一緒に清掃

「道守九州会議」の福岡県内の取り組みとして8月22日、水郷・柳川市の掘割周辺で道路清掃が行われた。同会議の福岡県



世話人の一人、山田三代子さん(柳川市)や行政の働きかけなどに地元観光協会や婦人会、老人クラブなどが道守活動に賛同。「道守柳川会議」発足の期待が高まり「まず活動から」の試みが生かされた。柳川市商工観光・建設・都市計画各課も参加し民間13団体を中心に総勢約250人が名物の掘割周辺の道路2・3kmを1時間半かけて清掃した。「住民と行政が協力し道路を大事にしたい」と山田さん。

## 猛暑、道に打ち水「先人の知恵」 道守会議連携のNPOが実施 福岡

### 大学生らが雨水や風呂水使い 佐賀

### 東京から広がる

路上に水をまいて都市の気温を下げる試み「打ち水大作戦2004」が8月、福岡・佐賀両県で行われた。この作戦は、先人の知恵を生かし、少しでも涼しい夏にしようとして昨夏東京で初開催。今年は全国各地に広がった。

福岡では道守九州会議とも連携するNPO法人「グリーンバード福岡」などが企画。



打ち水した先人の知恵を生かして(写真下)福岡市で行った(写真上)佐賀市で行った



8月18日、博多一番風呂(福岡市博多区築港本町)の協力で、残り湯をつかった打ち水を実行。約200人の参加者が一斉に5分間の打ち水を行い、その結果、周辺の気温は1.4度低下、体感温度は4度も下がった。21日には福岡市・天神の警固公園、25日には中央区大名の紺屋町商店街一帯で行われた。

佐賀では「佐賀環境フォーラム打ち水隊」の大学生らが企画。ためていた雨水や風呂の残り湯を使い、18日、25日にかけて佐賀市役所前などで一斉に水をまいた。

## 道守パネル展 九州各県「道の駅」を巡回

九州で「道」にかかわるボランティア活動に取り組む団体、個人などを紹介する「道守パネル展」が、6月下旬から8月末にかけて、九州各県の「道の駅」を巡回した。道路沿いの清掃や花壇の整備など、道を中心に街づくりや地域活動を行っている市民団体や民間非営利団体(NPO)などの活動を、10、20枚の大型パネル写真で紹介。道の駅に立ち寄った行楽客らにPRした。





## 癒しの道

矢野 初美

宮崎県最北の北川町は、古代より交通の要衝であった。いま、国道10号と326号、JR日豊本線が縦走。とりわけ平成11年に全線開通した国道326号は、宮崎県北と大分・福岡方面を結び、交流・連携の大きな役割を担っている。その326号からそれて山に向かう脇道、町道・黒内線を私は毎日、バイクで走る。郵便を配りながら。

まず、地元の窯元「夢境庵」、のぼり窯が目に入る。軒先に並ぶ焼き物は、素朴な色合いで、のんびりとした息遣いを感じさせる。人家数軒を抜けると柵田、ちよつと見上げるので斜めに広がる、柵田はそんな感じだ。手入れが行き届き、田植え前後、夏の青田、収穫前の黄金色のモザイク模様：どの時期も美しい。日本の原風景、毎日そう思う。柵田再評価の機運の高まりはうれしい。

さらに道をのぼり進むと、大きな岩の間に黒内滝。見上げれば背後に桑原山が迫る。別名八本木、標高1407mのこの山は新緑、紅葉と様々な顔を持つ。

山間をさらに進むと今度は山々が眼下に、そして頭上に。スカイスポーツ基地・鏡山。さらに世界遺産候補地でもあり、西日本各地から登山客が訪れる大崩山が間近に迫る。雄雄しくそびえ、私を迎え入れてくれる。

終点は「祝子川温泉美人の湯」。大崩山の登山口にゆつたりと構え、湯治客の疲れを癒す。

郵便配達をしながら、バイクで、毎日、通る道。四季折々の風が、景色が私の心を癒してくれる。田舎ならではの至福か。道を通いながら日本人の心の原点に出会っているのかもしれない。



(写真上) 町道黒内線から見た鏡山など北川町の山々

(写真右) 町道黒内線上赤地区からは柵田が広がる



プロフィール

北川町の道づくりを考える女性の会 会長  
宮崎県北川町在住。郵便配達の仕事の傍ら、町内の道づくりに関する活動を行う「北川町の道づくりを考える女性の会」の代表を務める。「道守九州会議」の宮崎県地区世話人。「道守みやざき会議」設立を呼びかけた。



## 私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、喜ばして楽しい地域づくりのために九州各地の道守会員が取り組んでいる、スタイルもアイデアもさまざまな活動をご紹介します。

### 地域からの報告 熊本編

多彩！先進的な熊本の道活動  
バリアフリー・ユニバーサルデザイン  
子育ても、高齢化対策も、景観も

#### 県内最大の「道のフォーラム」が母体

「道守くまもと会議」は今年3月に発足。道づくり意見隊約200団体で組織された県内最大のネットワーク「くまもと道のフォーラム」が母体となっている。

もともと道に関するさまざまな活動が盛んな熊本県。参加各団体はそれぞれバリアフリーからユニバーサルデザイン、高齢者対策や子育てウォーク、景観ウォッチングなどの多種多様な活動を展開している。今後も多彩な活動を展開予定だ。

#### 県内6カ所で開催の歴史街道ウォークを実施



昨年10月、「くまもと道のフォーラム」が主催し、熊本県内6カ所で歴史街道ウォークを実施。歴史街道研究者や観光ボランティアのガイドを受けな



ら、和気あいあいのウォーキング。晴れ渡る秋空の下、有意義な時間を過ごした。午後からは江戸時代の駕籠かきを再現し、人を乗せて競争する「駕籠かきレース」は思い思いの駕籠とコスチュームで登場。観客からは笑い声が絶えず、優勝した大学生チームは「楽しかった。来年も挑戦したい」と話していた。

#### 今秋企画は「みちづくしinくまもと」

##### 道守九州会議交流会2004

10月15日(金)・16日(土)、九州各県の道守たちを熊本市に集め、「みちづくしinくまもと」(道守九州会議交流会2004)を開く。

ご当地「道守くまもと会議」は、ただいま準備の真っ最中。15日は6つの分科会の後で全体学習と交流会を、16日は熊本城視察と、午後からは昨年の歴史街道ウォークで好評だった「駕籠かきレース」を熊本城長堀前で行う。

道をテーマに快適な道づくり・歴史・祭・景観・交通・観光などを語り合う2日間。道に興味を持つ人々を誘って、道守活動の輪を広げよう。

「みちづくしinくまもと」の詳細は17ページ「道守九州会議」からのお知らせをご覧ください。

#### 水俣市16区寄る会(熊本)

なべ滝へ通じる手作り遊歩道を  
地元住民の手で保守管理。

地元の一部には知られず、幻の滝といわれていた「なべ滝」(水俣市長崎)。大小6つからなるこの滝の保全や整備、活用策を考え行動を起そうと、平成12年、地元有志の手で全長約200mの手作り遊歩道を整備しました。

私たち水俣市16区寄る会は、この遊歩道の点検や清掃活動を行っています。毎月1回16区内の5つの地区が交替で担当。痛んだ場所は地元の人材で補修します。また滝を会場にしたウォークラリーや植物学習会も開催しています。



今年3月の環境美化ウォークラリーには約80人が参加。各々が自宅から空き缶を拾いながら滝を目指して歩きました。作業終了後には、滝の脇で演奏を行いました。



地域おこしの核、地元の人々の集いの場となつたなべ滝。これからも永く守り続けていきたいと考えています。



### 名島校区花の架橋実行委員会 (福岡)

人間が元気だと  
花も元気になる。



7連アーチが美しい名島橋(国道3号、福岡市東区名島・箱崎間204m)は平成6年、大掛かりな改修が行われました。建設から60年目の還暦改修の完了を記念し「名島橋サンクスフェア」が開かれました。

これをきっかけに毎月第一日曜日の名島橋清掃が始まりました。輪が次第に広がり平成15年6月にいくつかのグループが集まり現在の会となりました。会員は現在121人。名島橋周辺から3号線沿い一帯の道路の清掃と道路脇の花の手入れを行っています。また毎年8月には地域の夏祭りとして「名島橋サンクスフェア」を開催。

花を枯らさないことは思った以上に難しいことです。みんなで幾度かの失敗を繰り返して、試行錯誤しながら頑張っています。

「花がしよげると人間もしよげる。人間が元気だと花も元気になる」。メンバーだけでなく、住民のみんなと一緒に取り組むことを大切にしながら活動を続けていきます。

(荻原 彰人)



### 道を研究する会・ロードネット佐賀(佐賀)

有明海沿岸の道路整備について考える  
女性たちの座談会を開催。



私たちは、環境・歴史・食などの視点から「道」の必要性を研究する会です。宝の海・有明海沿いの地域に住む県内の女性たちと一緒に道路について学習したり、生活者の立場や視点から道を考える意見交換やミニ座談会などを行っています。

昨年開いた4回の座談会には、延べ1000人の方々が参加しました。有明海の特産、海の幸といったの昼食を楽しみながらの和やかな雰囲気の中「佐賀県は公共の交通網が十分に整備されていない」「道路が整備されたら遠距離介護の負担が減る」「道路のありようが生活と深く関係する」「有明海は景色がいいので見とれ事故が起きないように道路づくりの工夫が必要よね」などと率直で真摯な意見が出されました。

今春「道」という冊子を発行しミニ座談会でも出された意見や道づくり、道のあり方、地域の未来について情報発信を行いました。

(北島 悦子)



### ロードスターズ(長崎)

長崎の道を美しく、地域へお返しを  
メンバーは道路会社の野球部員。



私たちは、道路の建設に関わる企業の野球部です。「愛する長崎の道路をいつまでも美しく」「地域へお返しを」と、部員32人を中心にボランティアグループ「ロードスターズ」を結成しました。名は野球部のチームにちなんでいます。

2カ月に1回、国道や河川の美化清掃活動を行う「ボランティア長崎」に参加して長崎市役所から諏訪神社までの歩道を清掃しています。

日頃の仕事では上司・部下の関係ですが、野球と清掃活動になるとみんな一致団結。共に大汗をかき、ゴミを集めたり、雑草を取ったり。私たちができることを無理なく楽しく和気あいあいとしています。



清掃活動を中心に、この先は植木・花壇の手入れも行い、より清潔で住みよい長崎を目指し活動したいと思っています。

(福田 伸浩)

### NPO 観光コアラ(大分)

女性の視点とITで  
大分の道守をサポート!

私たち「NPO 観光コアラ」は平成15年11月に設立、現在17人で活動中です。女性ならではの視点でITを活用した観光PRや地域社会づくりに関わりながら「大分に住む人たちが、大分のすばらしさを情報発信すること」の大切さを実感しています。



大分の観光地を結ぶのは道。7月3日、別大国道(国道10号・別府市東別府―大分市生石間の約7km)を活かした地域づくりをテーマに「シンデレラシンポジウム」を開催。観光やIT、地域づくりで活躍中のゲストと一般参加者あわせて170人で、意見交換や議論を行いました。その様子をWEB

(<http://www.npocoara.jp/>)で発信しています。



今後も道に関するフォーラムなど、情報発信の場を設けて道守活動をサポートします。また、女性の視点で情報発信できるレポーターの育成にも力を入れていきます。

(渡辺 和子)

### あかつぱちファイトくらぶ(宮崎)

人を育て、  
道と地域をまもりまします。

私たちの住む北川町にも、少子高齢化の波が押し寄せています。2年前には町内の中学校が統廃合され、私たちの下赤小学校も全校生徒14人に。5年前に全線開通した国道326号線を歩く子供たちはめっきり減り、今や捨てられるゴミばかりが増え続けています。



「このままでは道も地域も死んでしまう」。平成11年11月、小学校の保護者を主体に「あかつぱちファイトくらぶ」を設立。「あかつぱち」は下赤小学校の3つの校区(下赤、上赤、八戸)を合わせた造語です。

会員は14人。保護者やその友人・知人で国道沿いのゴミ拾いを毎月1回第3日曜日に企画。子供たちを集わせ、楽しい思い出とボランティアの精神を育んでいます。やがて子供たちは巣立ち、私たちがもたえて行きます。この活動を通して、これからもずっと道と地域を守っていきます。

(広瀬 富世)

### 新上橋電車通り会(鹿児島)

県内一交通量の国道3号  
半世紀続く清掃活動、いっそう活発に



私たち「新上橋電車通り会」は、鹿児島市の中心部の一角、新上橋地域の商店約30店が参加しています。前を走る道路、国道3号は県内一の交通量。空き缶やタバコの吸殻ポイ捨ても多く、目立ちます。排ガスのせいか木花の痛みが早いようです。

「商店街の発展は道路から」が合言葉。道路清掃は戦後いち早くから取り組みもう半世紀続いていますが、昨年、歴史ある国道3号は、景観整備事業工事で立派な道路に生まれ変わりました。自分たちの店の前を徹底してきれいに、と清掃活動に一層力が入っています。

毎月第二日曜日を清掃の日と決め、早朝清掃を定例化しているほか、夏は七夕祭、冬はイルミネーションと、道路を心地良く利用してもらえるようにイベントにも取り組んでいます。「道路はだれのものでもなく自分たちのもの」という思いで、今後も活動に取り組みます。

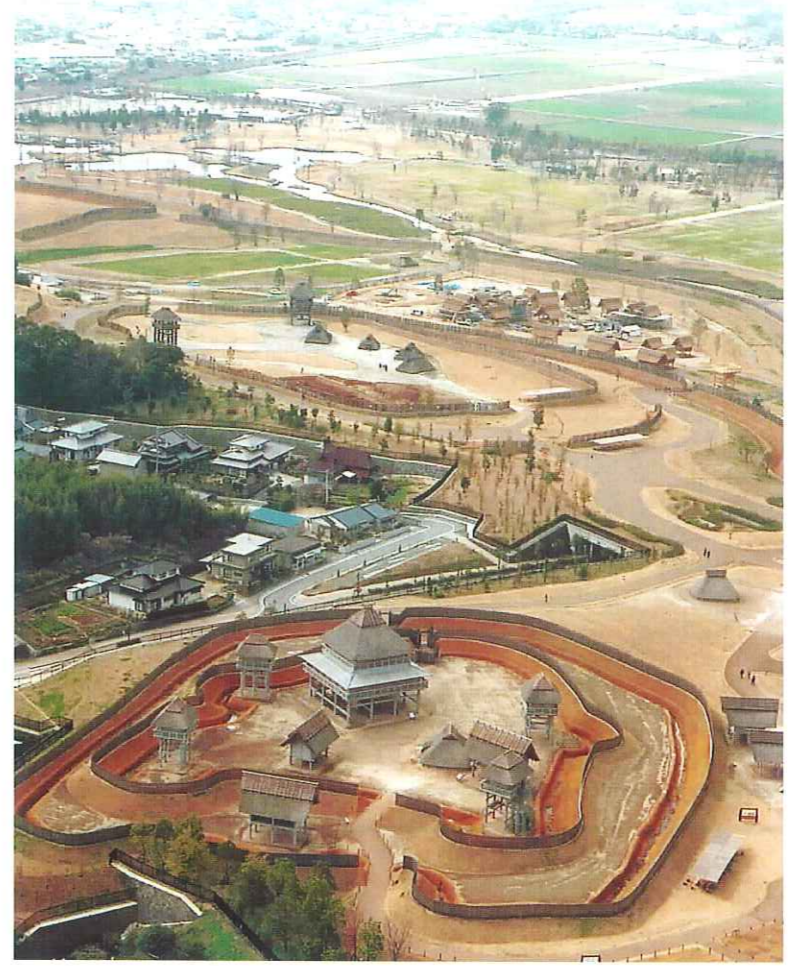
(石川 孝二)



# 吉野ヶ里遺跡を貫く 古代官道—大宰府、 そして都へのハイウエー



古代官道の切り通しと「ぜひ保存を」と訴える七田氏（円内）

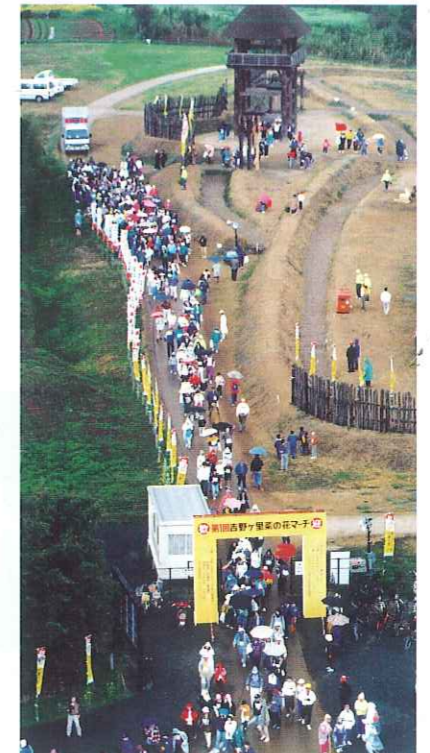


邪馬台国時代の遺跡として知られる佐賀県の吉野ヶ里を訪ねた。全国的な注目を集めた弥生時代の環濠遺跡であり、魏志倭人伝でルポされている国々の姿そのままに発掘され、規模、内容ともに群を抜く大規模遺跡。広大な遺跡は国土交通省と佐賀県によって歴史公園として着々と整備が進んでいる。

訪ねたのは、むせ返るような暑い日だった。「こんにちは」。10数年前、発掘作業でこつた返しにいた時と同じようなプレハブ小屋から七田忠昭さんの笑顔が現れた。口ひげに白いものが混じっているけれど、人懐っこい表情は変わらない。親子二代にわたって吉野ヶ里の発掘、調査、保存に情熱をかけた。NHK番組プロジェクトXでも取り上げられた誠実の人である。

吉野ヶ里遺跡には、知られざる土木遺産がある。遺跡の北部、人々を驚かせた巨大な墳丘墓の北側に、古代官道の切り通し、道路を平坦かつ直線的に通すため、丘陵を切り開いた遺構が現存するのだ。七田さんは勿論、弥生の研究者ではあるが、この奈良から平安時代にかけての官道の研究者で論文もいくつもある。

「高速道（長崎道）と平行して、この官道は走っているのです。肥前国府（現在の佐賀大和IC付近）から東へ、鳥栖から北上して大宰府へ、さらに奈良、京都へと」。幅員9・17m、道路両側に側溝を設け、大規模な切り通しのための掘削など計画的に施工された大規模な土木

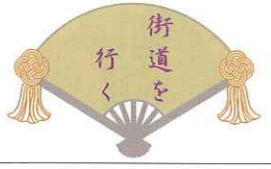


工事が今でも残されている。興味深いのは、単に古代道路が残っているというだけでなく、地域計画、土地利用計画の主役としてこの道路が整備されているということだ。「奈良時代の条理制の施行に合わせて、官道は作られ、地割り境界の役割も担っている」。つまり国策としての公共事業であり、今で言う「道の駅」には公共の建物群が数多く発掘されている。

今、高速道路建設が無駄遣いのように論じられる。1000年以上も昔、国をまとめ、地域計画をたて、大規模な土木工事に汗した我々の先人たちは何を思うだろう。別れ際に、七田さんが少し声を強めて言った。「このように官道がそのまま残っている遺構は貴重なのです。駅、その周辺の建物群、切り通し、水はけを意識した側溝。史跡に値する貴重な遺産なのですが」。聞けば、発掘、調査のための人も、金もないのだ、という。

（東 久保平）

## 歴史を学ぶ 道を守る



大霧島観光協会事務局長  
立山 努さん



同協会が開催する「龍馬ハネムーンウォークin霧島」は、馬ゆかりの宿の企画が前身、今年8回目を迎え、2日間の

### 日本初の新婚旅行 龍馬お龍の 道をたどる

鹿児島

山道をたどり、一面の畑の中を進み、川の飛び石を渡り、山の尾根をつたって歩く。幕末の志士・坂本龍馬とお龍との鹿児島・霧島温泉郷新婚の旅は、野趣に富んでいた。これが日本の最初的新婚旅行とされる。時は、慶応2年（1866年）春。

3月、京都・寺田屋で襲われ負傷し薩摩藩邸に匿われた龍馬は、明治維新の原動力となる薩長同盟を画策する一方、お龍と結婚。傷の治療には塩浸温泉（鹿児島県始良郡牧園町）がいい、そんな西郷隆盛の勧めで4月には鹿児島へ。療養と身の安全の旅を、司馬遼太郎は小説「竜馬がゆく」の中で「新婚旅行のはしり」と書いた。「おかげで日本初の新婚旅行が広まりました」と大霧島観光協会の立山努さん。



「第8回龍馬ハネムーンウォークin霧島」の様子



ウォークに延べ約3500人が参加した。1日目は、龍馬が絶賛した犬飼の滝などを巡る約23km。龍馬夫妻は隆盛邸などに滞在した後、日当山温泉（軍人町）を経て5月1日に塩浸温泉に着。11日間滞在し近隣を散策。「此の世の外とおもわれ候ほどのめずらしき所ナリ」「まことにもしろかりし」と記したほど楽しんだ。その一帯を歩いて追体験するのが初日のコースだ。



豪快に流れ落ちる犬飼の滝

龍馬が通つたとされる犬飼の滝へと続く古道



犬飼の滝へと続く古道



道は、山を切り開いたうす暗い山道。壁面には、火山噴火による歴年のシラスが幾層も重なる。塩浸は、現在は国道223号沿い。玄関前には「龍馬・お龍湯治記念碑」がある。犬飼の滝は旧霧島街道脇にあり、高さ約36m幅約18m。近くには和気清麻呂ゆかりの露天風呂・和気湯がある。ハネムーンウォーク2日目は霧島温泉コース約15km。龍馬が次に訪ねた霧島温泉郷一帯を歩く。現在は牧園町のほぼ中心部にあたり龍馬記念も多い。硫黄谷温泉で泊まった霧島



大正時代から昭和10年頃の塩浸温泉の写真

館を再建したのが現在の霧島ホテル。周辺には多くの温泉宿が軒を連ねる。ふり返ると、わき上がる湯気と深い霧が混じり、来た道が見えなくなっていた。龍馬夫妻はここから高千穂の峰まで足を伸ばし、天の逆錐を引き抜いて遊んだりしたが、現在のハネムーンウォークではコース外。参加者が年々増える人気に「高千穂登山も含め龍馬新婚旅行の全部をコースにしたい」と観光協会の立山さん。全行程を夫妻は歩いた。足跡が詳しく残るのは、龍馬自身が姉宛に詳細な手紙を書き送ったからだ。絵まですべて描いている。お龍との出会うや塩浸や高千穂登山のこと、西郷評や国情も：貴重な歴史資料であり、紀行文としても白眉。足元の悪い場所でお龍の手を引いたことも記し、この辺が「新婚旅行1号」認定に効いているのかもしれない。ともあれ、日本初の新婚旅行と龍馬人気、ウォーキングブームとを組み合わせた企画の人気は歩く楽しさ・道の楽しさが土台、「遠足」の楽しさを思い起こさせる。



龍馬が姉乙女にあてた手紙 慶応2年12月4日 坂本乙女宛（複製）

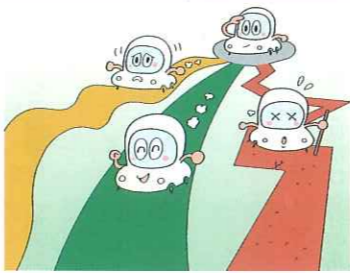


日本初

## 九州の道路の「走りやすさ」を地図にします

観光などで目的地までの経路を調べる際、一般の道路地図では国道や県道等の分類はされていますが、カーブや急勾配などは地形や絵から感覚的に予想するしかありません。また、山間部などでは、幅員が狭く急カーブの多い国道もあり、実は県道や市町村道等の方が走りやすい道である場合もあります。

そこで、国土交通省九州地方整備局では、道路利用者のアクセス性や安全性を向上させるため、道路幅員・カーブの大きさ・カーブの多さなど、道路構造に関する「走りやすさ」が一目で分かるマップ（『走りやすさマップ（仮称）』）を今後、専門家や観光関係者などの意見も聞きながら、道路利用者へ提供していきたいと考えています。



### 【走りやすさの分類】

自動車専用道路	ランク	走りやすさのイメージ
	M	自動車専用道路
郊外部・山間部	A	2車線以上の道路で、カーブも少なくスムーズな走行が可能
	B	2車線以上の道路で、カーブは多少あるものの比較的スムーズな走行が可能
	C	急カーブが多い2車線の道路、あるいは急カーブが比較的少ない1車線の道路
	D	1車線の道路で急カーブが連続あるいはすれちがいがにくい
市街地	T	歩行者・自転車道が分離され、路肩も広い
	U	歩行者・自転車道が分離されていないまた、路肩が狭いため走行に注意が必要

**道路構造上の「走りやすさ」を分析**

道路構造には道路幅員、曲線半径、縦断勾配などの要素があります。しかし、これらだけでは自動車の実際の走行状況までは判断できません。そこで今回は、実際の走行状況での道路の走りやすさを判断するために、人工衛星を利用して緯度や経度、車にかかる重力や速度などを図る装置（自動車版フライトレコーダー）を使用して道路の「走りやすさ」を分析します。

調査から得られたデータのうち、「走行速度」「横方向加速度（横G）」などを基に、道路の「走りやすさ」を評価し、7段階に分類します。また車線数の分類については、線の太さ等を用いて表記します。

### イメージマップ



太い2重線 片側2車線以上の道路  
細い2重線 中央線によって、片側1車線が確保されている道路  
細い1本線 往復1車線の道路

**まずは宮崎県北部版の走りやすさマップを作成**

「走りやすさ」と関係の深い情報を地図等に明記し、一目で分かるマップづくりを試みます。（急カーブ、規制区間、交差点名、交差点間の距離や走行時間等）また国道、県道等に加え、大規模林道や広域農道、観光交通を支援すると思われる主要な市町村道の情報も提供します。

現在、宮崎県北部地区をモデルケースとし、走りやすさマップを作成中。今秋から宮崎県北近隣の道の駅等でモデルマップを配布し利用者の意見を伺うこととしています。利用者の意見をふまえ、九州全域を調査し平成17年度には九州版走りやすさマップを作成する予定です。

● 道路についてのご意見・ご提案・ご相談を受け付けています ●

九州地方整備局「道の相談室」 ☎0120-106-497 ☎092-476-3514

● E-mail m-soudan@qsr.mlit.go.jp ● H.P. http://www.qsr.mlit.go.jp



## 交通需要マネジメントに取り組み国シンガポール



ERPゲートには狭域通信システムが設置されている。車に設置されたERP車載器と通信を行い、通行料金を引き落とす。ゲートを通過する際に減速する必要はなく、日本のようにパーもいないため、車の流れはとてもスムーズである。



小野 正純氏

ガーデンシティ、クリーンシティ、実験国家など様々な異名をもつ国「シンガポール」。車両割当制度、車両購入権、電子式道路通行料徴収システム（ERP）などの総合的な交通需要マネジメント（TDM）に成功している数少ない国のひとつでもある。なぜ、これほどうまくいっているのだろうか。

シンガポールでは建国当初に、現在の交通政策の基本となる土地利用計画・交通計画が一体となったマスタープランが策定されている。この計画では、モータリゼーションの進展による深刻な道路混雑を予見し、TDMを政策の柱とした。この基本政策のもと、車両の総量規制、自動車利用調整、高速道路の建設、大量軌道交通の建設、バス、タクシ企業との再編と効率化、交通結節点整備、パークアンドライドシステムなどの交通対策が実施された。その後、1991年にマスタープランの一部修正が行われているが、基本政策には今でも変更はない。

1975年のエリアライセンサー制度（ALS）導入に際しては、国民の交通手段選択の自由を配慮し、同時に代替交通手段となる公共交通の整備・対策も計画的・緻密に実施されている。1998年のERP導入時には、車載器の一定期間無償提供、国境におけるレンタル制度などにより迅速にシステムを立ち上



ETC車載器。現在、車両はETC車載器が搭載された状態で販売されている。

あるシンガポール交通政策担当者の言葉が今でも心に残っている「Policy never change, but implementation and operation should be changed（不変的政策、臨機応変な実行と運営）。都市国家、土地の国有化、安定した強い政府、迅速な組織改革など様々な他の有利な条件はあったものの、この言葉が、シンガポールにおけるTDM成功の秘訣と言えるのではないだろうか。

プロフィール  
会社員（技師）。1997年7月～1999年9月、シンガポール国立大学留学。工学研究院修士過程（交通計画学専攻）。世界各地の都市交通モデル、都市交通予測システムを研究。



緑豊かなリトルインドア付近の道路。街路樹が生い茂り、露店もあり、多くの市民で賑わっている。道路は、市民が憩い・くつろぐ生活空間でもある。



# 道の声 人の声

「道の声・人の声」は読者のみなさんの投稿欄です。ご自由に意見や随想、「道守通信」の感想などを郵便または「道守」ホームページの投稿メールでお寄せください。字数は200〜300字程度、写真も受け付けます。採用分には記念品を差し上げます。

## 車なら平凡道 歩けば冒険道

近くに新しいスーパーができたので、散歩がてら、三歳の息子と歩いて出掛けた。ゆつくり歩いて、十分足らずの道のり。稲の葉が風になびき、緑色のじゅうたんのあせ道を通りぬけ、小さな橋を渡ると牛舎があり、牛の鳴き声を聞きながらしばらく行くと、お店の顔が見えてくる。

途中、小さな虫を見つけては立ち止まり、かわいい野草を摘んだり、実際は倍くらいの時間がかる。普段、ちょっとした外出にも、車を使っていた私にとっては運動不足も手伝って、お店に着いたときには、少し息切れがするほどだ。案外、息子の方がケロツとして、早速お店の中を探索している。息子のたくましさを知ったこともあったが、車で通れば見過ごすものでも、徒歩だといろんなものが目に飛び込んできて同じ道とは思えない楽しさがあった。これからはたくさん歩いてみようと思う。健康のために、そして心に栄養を。(福岡県夜須町・宮原純子)

## タンポポの旅 千年かけ到来

全国どこに行ってもガーデニングが大はやりで色とりどりの花が目を楽しませてくれる。しかし、何といても里山や道路脇などで見かける野の花には、自然の息吹が感じられ親しみがわく。東京近郊は開発が進みいたるところコンクリー

ト化して、野の花も少なくなった。その中で最も健在なのがタンポポである。在来のカントウタンポポは帰化競争に敗れ、今見られるのはほとんどセイヨウタンポポである。

ところが本来、温暖の西日本に自生するシロバナタンポポが、近年は自然の形で関東でも見られるというのを知った。はるばる九州方面から千年の年を経てやってきたと専門家は指摘している。千年の旅といえばロマンチックだが、地球温暖化の影響では？と見れば手放しで喜べない心境でもある。珍しいものの好きの東京人は掘り起こして家に持ち帰ってしまうそう。

タンポポの花盛りになると、団地や空き地のシロバナタンポポを目を皿にして探し歩いている。(東京都西東京市・高橋俊郎)

## 安心できる暮らしに 道路整備は不可欠

いよいよ志津川町から陸前高田市間の整備計画格上げが間近なものと期待しております。しかし、「道路整備は十分」とか「採算性のない高速道路はもう造らない」などの声が中央から聞こえております。

果たしてそうでしょうか。道路は、私たちが安全に、安心して暮らすために必要です。一刻を争う病気への不安や地震、津波などで道路が通行止めになり、孤立してしまう不安などを感じながら暮らしている地域の実情は私たち全員が感じていることです。みんなが安心して暮らすために道路整備が不可欠であることについて、私たちはもっ

## 郵便の送り先は

〒812-0011 福岡博多区博多駅前1-19-3  
(社)九州地方計画協会内「道守九州会議」事務局  
ホームページは <http://www.michimori.com/>

## 国道を 個性的に使う

イベントや観光に関する情報が、専門になるわけですが、両方に共通して最も注意しなければいけないのが、それぞれが最高のものをと意気込んで、結果的に画一化してしまうことなんです。

ドレスアップの仕方にも個性があるように情報も一人一人違うはず。今日は別大国道がテーマですが、使う人それぞれが、様々な利用法を考え、使いこなしていくことが必要なのではないでしょうか。道路が愛が芽生える「恋愛空間」となりうる道路作りも必要でしょう。(大阪府立大学教授 橋爪紳也/シンデレラシンポジウムより)

## 毎日の生活の中で 自分たちに出来ること

朝学校へ行っているとき、ゴミ収集車がありました。作業員のおじさんたちは、道端のたばこの吸いながら空き缶なども一緒に拾っていました。「どうしてみんな自分のゴミをちゃんと捨てないのだろう」と思いました。僕は学校で友達にこの話をしました。そして学校が終わった後、みんなでゴミを拾いながら帰りました。お母さんからほめられました。(福岡市・松本友斗 9歳II話を聞きました)

## 霧に抱かれて 道からの景観

最近、大分県日田市から熊本県小国町に通じる広城農道「ファームロードわいた」が開通した。この道路沿いには、目の出撮影の好ポイント、広大なコスモス畑や花高原。溪流に紅葉が映える遊水峡。北海道の大自然を思わせる、長いうねりを見せる大根畑などが点在する。特に、大分県天瀬町の「花高原かめいし(コスモス園)」周辺から見る雲海は素晴らしい。

気象情報を入念にチェックしてきたつもりでも、期待どおりの情景にならないことが多い。運良く、好条件に出合ったときの喜びはひとしおだ。しかし、現像したフィルムを見るまでは、落ちつかない撮影行が続いている。(福岡市・田辺範光/西日本新聞「フォト随想」より)

## 投稿道守短歌のご紹介

※道守九州会議発足時に募集した短歌の応募作品を随時紹介しています。

海越へてはるかに続くこの道の  
片辺に咲けるサルビアの花  
(大分県 長尾サカエ)

大またで歩いていると  
毎日が今よりもっとイキイキするかも  
(群馬県 丹羽信夫)

小犬つれ朝毎散歩する老人  
歩道の隅に雑草つまむ  
(福岡県 藤田アサ子)

何げなく通る道路もそれぞれに  
膝で支える道守ありて  
(大分県 桜木心さ子)

遙かなる昔道守ありき今  
守る君よ僕は道に立つ  
(神奈川県 松本靖子)

## 「道守通信」

編集後記

▼人はその血管によって寿命が決まる、と医師から言われた。不摂生な生活習慣で血管にコレステロールがたまり、血の流れが「渋滞」し、やがてマヒ。脳梗塞、死の恐れすらある。道路は社会の血管。大動脈(高速道路)から毛細血管(生活道路)まで、社会の生命活動をになう。道守通信「秋号」を最終チェックしながら、道守活動が住民の良き生活習慣になるまで続く、と思った。  
(編集長・玉川孝道)

▼「猛暑の夏から実りの秋へ」道守通信月号では伝統文化継承や祭り、市など賑わい舞台としての道にスポットをあてました。九州の道守仲間も約300団体等、2万人を越える皆様のネットワークに成長し地域での連携の場も各県に誕生してきました。日頃から道に働きかけをされる方々はまたまたおられ、これらの皆様まで情報交流の輪が広がり、多くの利用者の皆様に道守の想いが届くよう願っています。  
(編集委員・森野彦II(社)九州地方計画協会副理事長)

▼本当に今年の夏はあつかった。道に植えられた草花たちもきつと大変だったことでしょう。10月15、16日に、熊本で道守九州会議の交流会が開催されます。くまもとは、歴史街道ウォーク&かごかきレースも同時開催予定で楽しそうなメニューがいっぱい。熊本城が最も美しい季節です。是非、熊本にお遊びにいらっしやしませんか。  
(編集委員・中村幸子II熊本の道を語る女性の会代表)

# 「道守九州会議」 からの お知らせ

熊本城を見ながら道を語りませんか？

## 「みちづくしinくまもと」開催

10月  
15日・16日

道守九州会議の交流会「みちづくしinくまもと」を10月15日(金)、16日(土)の2日間、熊本市で開催します。熊本城を眺めながら、道守の活動の輪を広げましょう。

15日は、全体学習や交流会を企画。道づくり・歴史・祭・景観・交通・観光などの6つの分科会で道をテーマに討議し、これからの道守活動について考えます。16日は、熊本城視察と「かごかきレース」。江戸時代の駕籠かき再現し、駕籠に人を乗せて競争します。

道に興味を持つ人たちをお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。九州各県の道守たちと大いに語り合い、情報交換しましょう。

■主催：九州地方整備局 道守九州会議 道守くまもと会議 くまもと道のフォーラム

### 10月15日(金)

全体学習・交流会 会場/KKRホテル熊本(熊本市千葉城町)

13:00 開会セレモニー

13:40 分科会討議「みんなで語ろう みちづくし」

- 1)「清掃美化、育草木」美しく快適なみちづくり  
座長・亀野辰三(大分高専教授)
- 2)「歴史、文化遺産」歴史文化からのみちおこし  
座長・田島直美(入来町女性団体連絡協議会)

- 3)「景観、アート」美と感動のみちづくり  
座長・三原ユキエ(ロードネット佐賀)
  - 4)「楽しみ賑わいの舞台」楽しみ賑わいからのみちおこし  
座長・阿野史子(ルート34ワークショップ)
  - 5)「暮らしと交通」都市や地域の交通課題への挑戦  
座長・大貝知子(NPOタウンモービルネットワーク)
  - 6)「きらめき創造と観光振興」地域資源を磨き生かした地域振興  
座長・中村幸子(熊本の道を語る女性の会)
- 15:10 記念講演 講師・阿南誠志(登山家、「25年間歩道交際の旅」主宰)  
15:50 全体報告会 座長・大石久和(早稲田大学教授)  
16:50 道守九州会議総会  
17:15 全体交流会(参加費2000円)

### 10月16日(土)

視察・体験学習

- 10:30 熊本城ぐるりんめぐり  
(参加費1000円、10:30に市民会館前の清正公銅像下集合)
- 12:00 日本三名城の一つ熊本城の歴史の道を散策します
- 13:00 \*全九州対抗爆笑かごかきレース 会場/熊本城長堀前

※スケジュールは変更される場合があります。予めご了承ください。  
■お問い合わせと申し込み先：道守九州会議事務局  
(社)九州地方計画協会内 TEL.092-473-1057 FAX.092-475-0533

## 入会申し込み 問い合わせ

(社)九州地方計画協会内  
「道守九州会議」事務局

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL 092-473-1057(代)  
FAX 092-475-0533

(ホームページも参照ください。申し込みも可能です)  
■e-mailアドレス  
michimori@michimori.com

## 「道守九州会議」 の情報発信

- 広報誌「道守通信」の発行
- インターネットで発信  
<http://www.michimori.com/>







自転車を止めて花壇の草を取る  
会議帰りの背広のままに

山崎源太郎

撮影地：福岡県二丈町



広報誌「道守通信」秋号  
平成16年9月17日発行

- 発行「道守九州会議」
  - 事務局 (社)九州地方計画協会内  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533
  - 「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>
  - e-mailアドレス [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)
- 定価 300円 (消費税を含む)